



人恋しくなる秋・・・10月の到来ですね  
今年も残すところ90日となりました  
スポーツの輝かしいニュースも終わり愛之助&紀香の結婚式や  
海老蔵の奥さんである麻央ちゃんの病状などが報道されています  
皆さんの多かれ少なかれ経験があるかもしれませんが  
QOL(クオリティ オブ ライフ)  
ご存知ですか?  
簡単に言うと、病気の治療の事だけではなく  
人間らしく前向きな気持ちで日々を過ごせるように  
生活の質や満足度や幸せ度という意味があります  
麻央ちゃんが QOL の為の手術をしたという事は  
治療が芳しくないか、状態がよくないのかも知れませんが  
胸や脇は切除できたものの、骨や肺にガンは残っているようで  
痛みもあるとブログに掲載されています  
しかし家族に支えられて一生懸命頑張っている様子が伺え  
ブログを読んでも涙してしまいます  
また、健康な私達はもっと頑張れる・・・とも思います  
私達は見守ることしか出来ませんが、応援したいですね!!

～10月号掲載内容～

- \*米大統領候補テレビ討論会
  - \*選挙資金
- \*米大統領選の今後の日程
  - \*コーク兄弟
- \*日銀2%のインフレ率達成を放棄
- \*サイバーセキュリティ、サイバー戦争
  - \*2億人の米ヤフー情報は
  - \*アーノルド・パーマー氏死去
- \*ミュージカル～シッダールタ
  - \*素晴らしい

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: [info@ibia.or.jp](mailto:info@ibia.or.jp)

## 米大統領候補テレビ討論

9月26日、米大統領選に向けて初めてのテレビ討論会が開催されました。この大統領選は民主党のヒラリー・クリントン(68)と共和党のドナルド・トランプ(70)の戦いですが、各国のメディアは概ね「勝者はヒラリー・クリントン」との見方です。

討論は「繁栄の達成」「米国の先行き」「米国の安全」の3テーマを30分ずつ議論しました。議論の中で日本に関係の深いTPP、為替政策、貿易政策、日米安保政策についての両者の相違点や一致点、日本への影響を探ってみました。

どちらの候補に共通して言えるのが「反グローバル化」が基本になっているようです。

### ■TPP

クリントン	雇用創出、賃金の引き上げ、安全保障促進に繋がる場合のみ賛成 現時点では満たしておらず反対としている
トランプ	馬鹿げた協定である、米国にとって不公平な競争にさらされる

### ■為替政策

クリントン	日本の円安誘導を批判、中国や日本が通貨の勝ちを下げることで意図的に製品の価格を安くしてきた
トランプ	円安を非難、米国のキャタピラーは日本のコマツとの競争が難しくなってきた

### ■貿易政策

クリントン	貿易を厳しく監視し不正行為には報復措置を執る
トランプ	自由貿易協定には反対、中国やメキシコからの輸入品全てに35~45%の関税をかける

### ■日米安保政策

クリントン	日本や韓国、その他の相互防衛協定を結んでいる国々との同盟を再確認し高く評価したい…とした
トランプ	日本の「ただ乗り」を批判、在日米軍撤退の可能性に言及し、日米安全保障条約を「片務的だ」として安保条約改定を求める

## 解説)

では…どちらが勝つのか…今回のテレビ討論会の結果、支持率はどの情報から見てもほぼ拮抗です。どちらかと言うとクリントンが少しだけ優勢のように見えます。

どちらになっても日本には非常に厳しい状況です。

「米国第一主義」のトランプになれば日米同盟関係が修正されるのは必至で、日本側に新たな不安が求められる事になり安全保障面では日本が不利になってしまいます。これはヒラリーにも言えることです。

トランプは、関税問題について日本が輸入牛肉にかけている関税を例に挙げ「日本が牛肉に38%の関税をかけたいなら、我々は日本の自動車に38%の関税をかける」と主張し、米国に輸入している自動車に高関税をかける対抗措置をぶち上げています。安倍首相が成長戦略の柱に据えている環太平洋経済連携協定(TPP)に関して「馬鹿げた協定だ」としています。

また、ヒラリーの勝利が日本にとって良いのかと言うと…そうでもありません。夫である当時のクリントン大統領は1998年に中国を9日間訪問しましたが、同盟国である日本には立ち寄らず無関心ぶりに日本政府は右往左往させられた苦い経験があります。夫クリントンと同じように中国寄りになり米中によるG2で世界を牽引する戦略を打ち出す可能性もあります。世界で2番目の経済大国である中国を最重視し、日本の相対的な地位が下がれば外交・安保環境は一変してしまいます。

## 選挙資金

ヒラリーには中国マネーが動いています。これに対し日本の政治家や財界人にも協力の要請がありました。応えている様子はありません。

一方のトランプ…共和党と言えば大口献金者であり大富豪のコーク兄弟を思い浮かべるでしょう。積極的に政治に関与しコークファミリーの動き一つで大統領選の結果も変わると言われていますが、今回はトランプの暴走を静観しており逆に困った存在のようです。誰もが選挙資金を借りにコーク兄弟を訪ねるのに対し、トランプは自分の資産を使って選挙戦を展開しコーク兄弟から資金提供を受けていません。(受け入れているという報道もありますが)コーク兄弟に考えがあるのか…はたまたトランプ氏がコーク兄弟の要求を聞かないのか…謎です。

トランプかヒラリーか…どちらを応援しても「ジャパン・バッシング」は変わりません…どの道も険しいですが、日本は日本で独自に頑張らねば!!

## 米大統領選の今後の日程

10月4日	副大統領候補討論会 バージニア州ファームビル
10月9日	第2回大統領候補討論会 ミズーリ州セントルイス
10月19日	第3回大統領候補討論会 ネバダ州ラスベガス
11月8日	大統領選 投票 開票
2017年1月20日	第45代大統領就任

## コーク兄弟

米大統領選の命運まで握る米国の真の支配者と言われているコーク兄弟とは…果たしてどんな人物なのでしょう。

コーク兄弟と呼ばれているのは、フレッド・コークの次男チャールズ、三男デイビッド。

コーク兄弟の父であるフレッド・コークはコーク・インダストリーズの創業者(1940年創業)で、石油の熱分解プロセスを開発し利益をあげたのが始まりで、工学技術で事業を成長させ事業内容を石油精製技術へと移行していきませんが、会社を大きくしても株式上場することはなく成長を続けます。

非上場の大企業「コーク・インダストリーズ」、石油・科学・日用品の総合企業で、非上場企業では全米第2位の規模を誇ります。

2013年のグループ全体の売り上げが1150億ドル(約13兆8000億円)で従業員数は約10万人で、実質的に会社を動かしているのはチャールズとデイビットです。2人の資産を合わせると、2016年のフォーブスランキングで1位のビル・ゲイツの資産750億ドルを超える約800億ドルにもなっています。

父から受け継いだ反共産主義が政治に関わる第一歩となり現在に至っており、ブッシュ政権のイラク戦争などの財政的に無理な政策が推進された事が大きく影響し、「コーク・ミーティング」という場を設けて保守派の石油・銀行・製造・不動産などの企業家や政治家を招いて、議会や裁判官の選挙まで様々な政策を話し合っ資金を調達し始めます。15名程で始まったミーティングも参加者と資金調達額を増やし大規模なものになっています。これが現在の「ティーパーティ」と言われるグループで錚々たるメンバーで構成されており、共和党候補の票を握る存在になっています。

コーク兄弟は小さな政府・低い税金・少ない規則を理想としアメリカ軍が国防以上の存在として活動する事や他国の政権打倒の為に使われる事に対して税金の無駄使いだと反対しています。

…という事は「世界の警察官」は大反対どころか、問題外でしょう。

トランプを批判してはいるものの…コーク兄弟と考えが合うのでしょうか、言う事が毎日変わるトランプに戸惑っているようにも見えます。

果たしてコーク兄弟は自分の資産を投入して動くのでしょうか!?

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp

## 日銀2%のインフレ率達成を放棄

9月21日、日銀が金融政策決定会合の結果を発表しました。

その内容は日本銀行が「2年で2%のインフレ率を達成する（達成期限はすでに延長されていますが）」というコミットメントによるデフレ脱却策を放棄したものでした。この会合で①短期金利政策の引き下げ②長期金利操作目標③資産買い入れの拡大④資金供給量の加速…を示し、この中では①②が有力な手法になるとしました。

### 解説)

日本の資金供給量はGDP比80%と欧米の4倍です。このペースで後1年も継続すると100%を超えます。分かり易く言うと日銀がお金の供給量をジャブジャブ増やせばインフレ2%の達成が出来る（もちろん単純増やすばかりでないですが）…と言うのが政策でした。

ところが一向にインフレにならず日銀はこんな言い訳をしています。

- ・2014年夏以降の原油価格の下落と消費税率の引き上げ後の需要の弱さ
- ・2015年夏以降の新興経済の減速と、それを受けた世界的な金融市場の不安定化の逆風

では…なぜインフレにならないのか!? 勉強したでしょう?

経済は需要と供給で決まります。供給が多く需要が少ないとデフレになり、反対に需要が多いとインフレになります。

日銀のレポートでは「…物価上昇率の実績値が安定的に2%を超えるまで通貨供給量(マネタリーベース)を増やし続けると約束する事にしました」としました。しかし需要が無ければお金が幾らあっても物価の上昇はありません。要は総需要の不足で方法は幾らでもあります。直接的には財政出動、公共事業などに投資する事によって公的需要、総需要を増加させ国内総生産や民間消費などの増加を図り需要を増加させ失業者に雇用機会の創出も見込まれます。

規制緩和などの新事業の立ち上げを推進し需要を増やす事も出来ます。前からも主張しているようにアベノミクスの第一の矢、第二の矢に放たれましたが構造改革という矢は未だですよ、要は経済の基本である産業構造など根本的なものには手を付けず、小手先だけの金融の量的緩和だけでは経済は変わりません。政府もようやくこの事に気が付き始めたのではないのでしょうか?

## サイバーセキュリティ、サイバー戦争

わずか30年ぐらいの間にコンピューターの急激な進歩が私達の生活を一変させました。パソコン、スマートフォン、自動車、テレビ…ありとあらゆる物にコンピューターが搭載されています。皆が携帯電話を持ちスマートフォンで世界の情報を検索、何処かに行きたければナビゲーション、家に居ながらショッピング、自動運転システムも直ぐそこまで来ています。コンピューターによって便利になった生活…しかし便利さだけではありません、知らない間にあなたが居る場所を把握され、あなたの銀行口座から他人が出金し、或いはカードの不正利用でショッピングされているかも知れません。住所、生年月日、パスワードなどを盗まれたらどうしますか!?

今までに個人情報流出やハッキングされた例は沢山ありますが、今回は米ヤフーです。

2014年に受けたサイバー攻撃で少なくとも5億人のユーザー情報が流出したと9月22日に発表しました。攻撃は国家の支援を受けて実施された可能性があると言われていています。8月に個人情報の転売で悪名高いハッカーが米ヤフーから流出した2億件の個人情報をデータ闇売買市場で売りに出すまで米ヤフーは被害に気付きませんでした。ハッカーはそれまでに目立たないように小分けにしてデータを売っていたようです。米ヤフーは攻撃者が侵入可能な状態で、しかもハッキングされている事も知らず2年間も放置してしまっただけです。

## 2億人の米ヤフー情報は

「Peace」と名乗る人物がヤフーユーザーのログイン情報と称するデータを闇市場で売り出しました。このデータは過去にLinkedInやTumblrのユーザー情報を流出させたロシアの集団から入手したと言っています。

売りに出されたのは2億人分のユーザー名、パスワード(MD5のアルゴリズムでハッシュ化済み)誕生日などの情報とされています。2012年当時の記録が大半と思われ約1860ドルに相当するビットコインの値段が付いていると言います。

米メディアMotherboardは、このデータが公に売り出される前に5000件余りのデータを入手し、20件余りのユーザー名について調べたところ殆どがヤフーの実際のアカウントと一致したと伝えています。

さて、過去のサイバー攻撃事件を見てみましょう。

エストニアの例)

北欧・バルト海に面したエストニア

1991年に旧ソ連から独立し九州ほどの国土に134万人が暮らす国です。

2007年4月27日にバルト海に面した北欧の小国エストニアは異様な朝を迎えました。それは大統領府のウェブサイトの異常から始まったのです。世界中から大量のアクセスが押し寄せてサーバが耐え切れずにダウンしサイトは使用不可能に陥りました。ほぼ全ての政府機関、通信関連、主要報道機関、それに2大銀行も狙われました。

エストニアは独立直後からネットインフラ構築に力を入れており、行政手続きの電子化やネット銀行の利用は世界有数の水準に達していました。2007年当時の銀行の全取引の95%がオンライン化されており市民生活にも浸透していました。そんな中エストニアをいう国の根幹を支えるコンピューターシステムやネットワークが次々とダウンしたのですから被害は甚大です。

このサイバー攻撃は予め乗っ取り機能を忍ばせ世界各地のコンピューターを遠隔操作し一斉に仕掛けられたものです。同国へ流入した総トラフィック量は通常時の400倍以上だったと言います。

攻撃が終息に向かったのは3週間後でした。犯人捜しをしましたが犯人の特定は不調に終わりました。ボット攻撃を操縦したのはロシア国内の集団ではないか…と言われましたが、ロシア政府からは犯人捜しの協力が得られなかったのです。

中国は…

ロシアの他にも強力なサイバー攻撃部隊があります。

中国です!!

人民解放軍総参謀部第3部の傘下には中国人民解放軍のサイバー部隊「61398」部隊があります。上海郊外の12階建てのビルが拠点です。



アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先 : [info@ibia.or.jp](mailto:info@ibia.or.jp)

サイバー世界での不正なアクセスや攻撃が世界中で増え続けている昨今ですが、実際にどの国が何処に攻撃をしているか…普段の生活ではわかりません。そんな情報を可視化できるツールがありました。

世界中で発生している国家間のサイバー攻撃をリアルタイムで分析・解析したものを可視化できるツールをご紹介します。

<https://cybersecurity-jp.com/free-tool/visualization-tool>

参考)

サイバー戦争とは、インターネット及びコンピューター上で行われる戦争行為の事。

クラッカー等の集団や国家によって組織されたサイバー軍により敵対する国家、企業、集団、個人等を攻撃。かつてはサイエンス・フィクションにおける架空の産物でしたが、技術の進歩により現実のものとなっています。

サイバー攻撃の事例 [http://e-light-security.jp/danger\\_japan/section2.html](http://e-light-security.jp/danger_japan/section2.html)

ちょっと驚きますよ!!

### アーノルド・パーマー氏死去

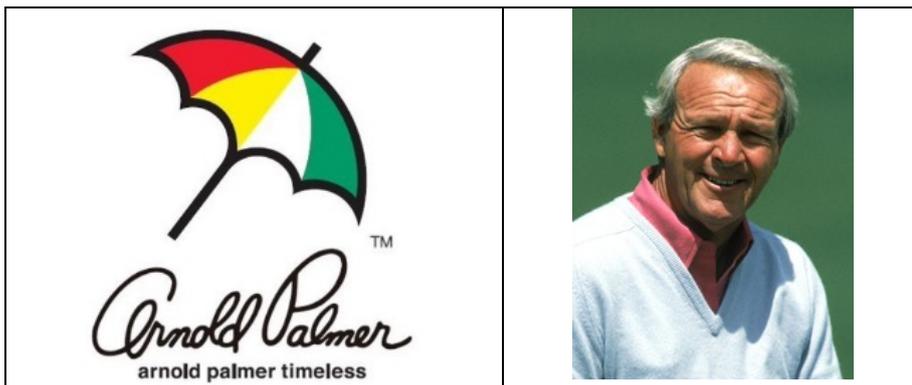
1929年9月10日 米国ペンシルベニア生れで往年のゴルフ選手が9月25日に87歳で死去しました。死因は心臓疾患による合併症でした。

彼の父はクラブプロ兼グリーンキーパーで5人兄弟の長男で、ウェイクフォレスト大学に進学し1954年に全米アマゴルフでデビュー、そのタイトルを獲得すると間もなくプロ入りを表明しました。翌年ツアーに参加してプロゴルファーとしてデビューし、同年にはランク32位となる賞金を獲得しました。

その後は米国でスポーツのテレビ中継が徐々に本格化し大きな注目を集めるようになった1950年代半ばから活躍。メジャー7勝、米ツアーでは歴代5位の62勝を記録しシニアツアーでも10勝を挙げました。力強いスイングと攻撃的なスタイルで女性を含めファンを魅了し、特に60年からの4年間でメジャー5大会を含むツアー29勝を挙げ、その無敵ぶりで米スポーツ界きっての人気者になったのです。

ジャック・ニクラウス選手(米国)、ゲーリー・プレーヤー選手(南アフリカ)と共に「ビッグスリー」と呼ばれ、74年に世界ゴルフ殿堂入りを果たしビジネスでも成功し、世界各地でゴルフコースの設計に携わりました。

マスターズには、74歳の2004年まで出場し、これは連続50回の最多連続出場記録となっています。アーノルドはニクラウスと同じドイツ系のプロゴルファーでしたが、元フットボール選手を父に持つニクラウスには上流階級ゴルファーのイメージがあったのに対し、アーノルドは中・下流階級のゴルファーのイメージがあり、そのことで多くの人々がニクラウスよりもアーノルドに親近感を沸かせていました。



## ミュージカル～「シッダールタ」

先日、友人にミュージカルに誘われました。一体何のミュージカルなのか尋ねたところ「釈迦様の一生」だと言います。ネットで調べても出てきません…会場に到着したところ周りは中国人が大半で、受付にはお坊さんが数人と関係者、募金箱が置かれおり帰りにヒスイやサンゴを買わされるんじゃないかと不安な思いを胸に早い者勝ちの席に座ります。

舞台には手作りの看板が飾られており、ミュージカルの会場というよりも学園祭のような雰囲気…素人によるミュージカルだと思い込んでいましたが始まってビックリ!! 煌びやかな衣装に身を包んだミュージカル歌手が歌いながら登場し会場を圧巻の渦に巻き込みました。彼らはどうやらフィリピンの方のようで英語でのミュージカルなので舞台横の大スクリーンで、日本語、中国語、韓国語で台詞が表示されます。



どうやらこのミュージカルはお釈迦様(ブツダ)が生まれる前からの一生を描いたミュージカルでした。フィリピンの学生なのか、本当のミュージカル俳優なのか…もしかしてお坊さんたち!?! と色々考えながら、段々とミュージカルに引き込まれていました。

ミュージカル「シッダールタ」は紀元前600年、古代インドの歴史上の人物であるシッダールタ太子(釈尊)の一生を基にした2時間30分のミュージカルです。

太子は乳児の時に偉大な王、或いは悟った出家者になると予言されましたが、父である王様が太子の出家を阻む為に宮殿の中で太子にあらゆる栄華や富を与えました。太子は苦しみ分からない環境で育ちましたが、ある日宮殿を出て外遊した時に「老」「病」「死」という苦しみを目にしました。なぜ人は皺が増えて腰が曲がり、痛みを抱えて死んでいくのか…太子の心は揺れ、家を離れ人々の苦しみをなくす方法を見つける事にしました。7年間探し求め内省した後に遂に悟りを得ました。その時から太子は八正道の実践と、人生の無常、因縁、縁起などの人生の心理を教え人々を導いたのです。

### 第1幕) 覚悟の旅

物語はシュッドーナ王の素晴らしい跡継ぎの誕生から始まります。カピラヴァストゥ国の国民は皆、シッダールタの誕生を大変喜んでいました。皇后のマーヤー夫人は白い像がお腹に入った夢を見ました。太子は生まれた瞬間に7歩歩きました。アシタ仙人は太子が将来、偉大な王或いは出家者になると予言しましたが、シュッドーナ王はこの予言を阻み太子が永遠に真実の世界を知ることのないよう宮殿の壁の内側でしか生活できないように命令しました。

太子はハンサムで人から敬愛される大人に育ち、ヤショーダラ姫と結婚しました。太子は宮殿で栄華や富を極めた楽しみを与えられても、依然満足を感じませんでした。好奇心からシッダールタは宮殿から出て壁の外の世界を見て回り、そこで「老」「病」「死」という人生の真実を目にしたのでした。太子は宮殿に別れを告げ解脱できる答えを探しに行きました。

シッダールタはより多く学びたいと切に思い、苦行者たちの森に行き彼らと共に苦行しました。国王は息子を探す為に5人侍者を派遣し、彼らは森の中で苦行している太子を見つけましたが太子の志に感動し共に苦行する事にしました。しかし、その後彼らはシッダールタが羊飼いの少女の供養を受けた事に嫌悪し離れていきました。苦行に疑問を抱いていたシッダールタは苦行が解脱の方法ではない事に気付きました。菩提樹の下で悟るまで動かない事を誓い、やがて金剛座で悟りを開きました。

## 第2幕) 涅槃の道

5人の侍者は戻ってきてシッダールタが成道し、仏陀になった事を知りとても驚きました。シッダールタは彼らに八正道を教え、法輪がその時からすべての人々の為に回り始めました。

シッダールタが成道したことはカピラヴァストゥ国の全国民に伝わりました。角界の人々が集まり仏陀を歓迎し、家族は宮殿に帰ってきた太子の変化を見て、仏陀を尊敬し信仰するようになりました。そしてシュッドーダナ王は死の直前、仏陀に許しを請い三宝への帰依を願いました。荘厳な出棺の儀式で仏陀も父の棺を担ぎました。

仏陀はラーフラ(釈尊の息子)、玉耶女、チューダ・パンタカ、ニディなどに正法を教えました。マハー・プラジャーパティ(釈尊の叔母・養母)はアーナンダ(釈尊の侍者)に、自分とヤショーダラ(シッダールタ太子の妻)を僧団に入れてくれるよう仏陀に頼んで欲しいとお願いしました。切なる懇願を知った仏陀は黙って許可しました。

月日が経ち仏陀は歳をとりました。涅槃の前に相談の皆にいつまでも法輪を回し、八正道を実践するようにと戒めたのでした。

このストーリーがミュージカルで分かり易く感動的に演じられています。





このミュージカルの原作は佛光山を開山した左の星雲大師が創ったもので、古から今に至るまで仏教徒はみな梵歌によって仏の功德を讃えてきましたが寺院の殿堂に限られていました。しかしどうして人々の前で歌い一緒に楽しめないのかと…「音声を以って仏事を成す」ことによる弘法効果を深く信じているので梵歌音楽の提唱に力を入れてきました。1979年、気運の高まりと共に「佛光山梵歌讚美団」が誕生し、仏教音楽が国際的に広がり世界の人々も参加するようになったのです。

1999年、マレーシア佛光山が上演、3回の公演で18000人の観客が集まるほどでした。

その後、シンガポール、南アフリカ、インドネシアなどの国々で8年間30回の公演を経て仏教音楽劇の表現も更に素晴らしいものとなっているそうです。その後も台湾やセブ島などで続けられており、異なる民族、異なる宗教のメンバーが融和し協力し合って作りあげているのです。

フィリピンは美しい千の島からなる国で、豊富な天然資源のあることで知られています。真夏の太陽、青い海辺、風にそよぐ椰子の林以外にフィリピン人が情熱的、友好的、楽観的、純朴である事が知られており、それらが多元的な音楽芸術創作の中に現れています。佛光山はフィリピンに25年に渡り支援してきましたが、フィリピン芸術学院から今回設立した光明大学まで星雲大師の打ち立てた「文化を以って仏教を弘める」「教育を以って人材を育てる」という趣旨を遵守しえます。今回のミュージカルはフィリピン佛光山光明大学の教師と学生たちで公演を行っています。

最初は不安でしたが、素晴らしい公演で知らなかった事が分かっただけでなく、世界で長きに渡りご活躍されている人々がいるのだと改めて感じました。

劇中に出てくる八正道とは…興味のある方は一度調べてみて下さい!!

このミュージカルを通して感じた事は…「何事にも永遠はなく変化しゆくもの、欲を捨てれば執着もない、しかし生きている今は目標を掲げ一生懸命生きよう!! まずは生きている事に感謝して親孝行だ!!」と思いました。

## 素晴らしい

女子ゴルフの国内メジャー大会「日本女子オープン」が鳥山城カントリークラブで行われました。優勝したのは17歳の畑岡奈紗選手、高校3年生のアマチュアがメジャーで優勝するのは史上初で最年少記録を更新!! 首位と4打差の5位でスタートした畑岡選手は、バーディー5つ、ボギー2つでスコアを3つ伸ばし通算4アンダーの逆転で優勝しました。

畑岡奈紗は茨城県笠間市出身で母親の影響で小学生からゴルフを始め、中学生になってからは中嶋常幸選手の主宰するヒルズゴルフトミーアカデミーに参加して中嶋常幸の愛弟子として腕を磨いてきました。名前の奈紗はNASA=アメリカ航空宇宙局からとって、誰にも出来ない事が出来るようにという願いが込められているそうです。

中学校時代は陸上部の短距離の選手でもあり、強い下半身を生かした安定した男性のようなショットが持ち味で、将来はアメリカツアーへの参戦を目指しているということです。

しかし、プロの選手が頑張っている中での優勝、素晴らしいものです。

ちなみに賞金は優勝者0円、2位の堀琴音選手に2,800万円だそうです。

重いキャディバッグを持ちキャディを務めたお母さんも立派です! おめでとう!!